

# 認知症ケアチームの活動

適切な認知症ケアの実現にむけて

当施設ではよりよい認知症ケアを実現するために、平成24年度に認知症ケアチームを設立し、さまざまな活動を行ってきました。今回は認知症ケアチームの活動の一部を紹介させていただきます。

## 対応が難しい方への介入と認知症ケアマニュアルの作成

現場の困難事例に介入し、適切なケア方法をチームが提案しました。そして、成功した事例を基に、認知症ケアマニュアルを作成し、今後のケアに活かせるようにしました。

このマニュアルの特徴は、チームメンバーが患者役、介護者役として、ケアセンターの1室で演劇を行い、その様子を掲載したこと。題して『KKC版 映像でみる認知症ケアマニュアル』です。

現場で実際にある身近なケースを題材にしており、誰が見ても分かりやすいものになっています。また、役者となったメンバー自身の認知症の方とのコミュニケーションスキル向上につながりました。



写真左手が講師の中田さん

中田さんはご自身のご家族様を介護された経験からバリエーションを学び始めたそうです。研修会では、小学校の校歌を思い出しながら歌い、向かい合った人が相手の言葉を復習することでお互いがどんな気持ちになるか、という体験型の学びが多くありました。

## ご利用者様の生活をより豊かにするための環境の見直し

左写真のような環境の見直しをすることでご利用者様のストレスの軽減を図りました。



カーテンやのれんで日光量や刺激を調整



慣れ親しんだ生活に近いスペースを作る

## バリエーションを学んだチームメンバーの感想

バリエーションを学ぶ前は、帰宅願望の強いご利用者様に「何とかしてこの場を治めたい」と、その場しづきの説得をしていました。その結果、ご利用者様の不安はぬぐえず、不信感が残っていたように思います。バリエーションを学ぶことで、感情に目を向けるコミュニケーションを取れるようになり、ご利用者様の言動の背景を理解できるようになり、共感を示せるようになりました。その結果、ご利用者様との信頼を深めることができました。

## 認知症高齢者との「コミュニケーション法」の研修会

チームがマニュアル作成と並行して取り組んできたのが、認知症の方との「コミュニケーション」方法の1つであるバリエーションの普及です。

バリエーションとは「確認する、強くなる」という意味をもつ言葉です。

開発者ナオミ・ファイル氏らにより、認知症の方の「経験や感情を認め、共感し、力づける」ことで、「コミュニケーション」を図る技法として考案されました。

バリエーションをうけた方は、ストレスや不安が軽減され、自尊心を取り戻すことができますが、ケアを受ける側だけでなく、施設で働く職員もバリエーションを行うことで、認知症の方の行動に理由があることを理解でき、フラストレーションが緩和され、認知症の方とコミュニケーションをとれることが楽しくなります。

## 認知症ケアチームに「ご相談ください」

ここまでバリエーションの効果について説明してきましたが、実はこの方法はいくつもある認知症の種類の一つ「アルツハイマー型及び類似の認知症」に対して有効であるとされており、他の種類の認知症の方に対しては、その方にあった方法を選択する必要があります。

委員会には専門の資格をもった職員がおり、認知症ケアの取り組みの中心を担っています。

認知症をもったご家族のケアを行う上でお悩みがありましたら、いつでもご相談下さい。

(認知症ケア専門士)

● 中村寿史…介護福祉士

● 吉田尚美…看護師

(認知症ライフパートナー)

● 千稜亮裕…老健5階担当介護職

